

学童の計測値と衣服寸法について

池田揚子*・清水房*・中屋洋子*

(1983年6月30日受理)

I はじめに

被服を構成する立場から、着衣基体である人間の体型を把握することは被服寸法の適合性を検討する上で重要な課題である。

筆者等は1967年以来5年毎に岩手県の女子中学生を対象とした身体計測をおこない、中学校女子向き技術・家庭科の被服教材との関連の中で寸法適合性の検討を進め報告¹⁾をした。

この度は人間の衣生活に便利さと豊かさをもたらす、近年とみに依存度の高い既製服に関して、消費者側から尚苦情のある衣料サイズと計測値について検討を試みることにした。

既製衣料の寸法基準作成のために、全国的に調査研究班が組織された。このような日本人の体格調査研究は1978年～1981年の4年間に渡り、15地区の乳児から成人に及ぶ年齢層別に59,400人を対象に実施された。

この度は盛岡班として当地区の計測を担当した。この際計測した1979年の小学生男女の計測値をもとに、昭和55年3月に公示されたJIS規格との関連で上衣寸法について検討をおこなったので報告をする。

II 調査方法

- 1) 計測の時期：1979年8月20日～25日までの6日間である。
- 2) 計測の対象者：岩手大学教育学部附属小学校に在学する1年から6年までの男女716名。(対象者のうち欠測値のあるものと年齢6才のものは少ないので除外した。)
- 3) 計測の方法：マルチン氏の方法と日本人の体格調査の計測方法に従って実施した。
- 4) 計測用具：マルチン式人体計測器、ホルテインの皮下脂肪厚計。体重計。計測台であり、補助用具としてはベルト、ネックチェーン、細丸ゴム紐、物指、セルロイド板。
- 5) 計測項目：男子と低学年の女子は41項目、女子高学年では44項目である。
- 6) 上半身用衣服と関係の深い項目：14項目(乳頭位胸囲、背肩幅、背丈、袖丈、腰囲、胸部矢状径、胸部横径、胴部矢状径、胴部横径、頸付根囲、右腕付根囲、右上腕最大囲、右手首囲、胴囲)と身長、体重、座高を加えた17項目をとりあげた。
- 7) 対照資料：① 1979年度学校保健統計調査結果(文部省大臣官房調査統計課)。
② 新しいJIS衣料サイズ(通商産業省工業技術院監修、日本規格協会発行)。

* 岩手大学教育学部

III 結果及び考察

1 計測の対象者：盛岡市の岩手大学教育学部附属小学校に在籍する健康な男・女児童全員である。満年齢については x 歳±6か月として取り扱った。なお6歳の14名は人数が少ないためまた欠測値や異常値のあった14名は統計処理の対象外とした。

年齢・性別の構成を表1に、女兒の既潮率を表2に示した。

表1 被計測者の年齢性別構成

年齢(歳)	7	8	9	10	11	12	合計(人)
男児(人)	64	62	66	63	60	48	363
女児(人)	57	62	63	60	62	49	353
計(人)	121	124	129	123	122	97	716

表2 初潮来潮者

満年齢(歳)	9	11	12										計
初潮年月(昭和)	年54 月7	54 1	53 5	54 8	53 4	53 11	53 5	54 6	53 8	54 3	54 8	不明	12名
初潮時満年齢(歳)	9	10	10	11	10	11	11	12	11	11	12	不明	
	7	7	7	10	8	4				2	10	3	

この表のとおり、各年齢およそ50~60名で男児363名、女児353名、合計716名である。また初潮来潮者は12名で既潮率は3%、平均初潮年齢は11.03歳である。

2 計測対象者の生活環境

1) 成育地について表3に示した。中都市が97.4%で大部分を占め、大都市、小都市、農村は合わせて2.6%と若干である。

表3 被計測者の成育地

年齢(歳)	7	8	9	10	11	12	合計(人)	割合(%)
大都市(人)	3	1	2	1	2	1	10	(1.4)
中都市(人)	118	121	127	121	116	95	698	(97.4)
小都市(人)	0	2	0	0	3	1	6	(0.9)
農村(人)	0	0	0	1	1	0	2	(0.3)
計(人)	121	124	129	123	122	97	716	(100)

2) 保護者の職業構成は、会社員・銀行員が716人の児童のうち278人(38.8%)。公務員・教員は245人(34.2%)であり、この両者の給料生活者は73%を占めて最も多い。医師・弁護士・専門技能者は115名(16.1%)、商業・自営業は73名(10.2%)、無職・その他は5名(0.7%)であった。

表4 両親の出身地

出身地	岩手県	岩手県以外の東北	北海道	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	その他
父親(人)	555	73	21	47	13	10	2	3	2	2
母親(人)	546	79	8	47	23	9	1	1	4	0
合計(人)	1,101	152	29	94	36	19	3	4	6	2
割合(%)	(76.2)	(10.5)	(2.0)	(6.5)	(2.5)	(1.3)	(0.2)	(0.3)	(0.4)	(0.1)

3) 両親の出身地を表4に示した。両親の出身地をみると、岩手県が76%と最も多く、東北地方と合せると87%で大部分を占める。その他数%ずつ全国各地に出身地を持つことがわかる。

3 1979年度学校保健統計の身体計測値^(注2)と被計測者の計測値の比較

身長・胸囲・座高・体重の4項目について全国平均との比較である。

1) 身長について、年齢別・性別に両平均値間の有意差検定結果を表5に示した。

表5 全国平均値との比較(身長)

単位: cm

性別	地区・有意差	7		8		9		10		11		12	
		\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s
男児	全 国	115.7	4.87	121.3	5.07	126.7	5.29	131.8	5.51	137.1	5.90	142.4	6.73
	有 意 差	※※		※※		※※		※※		※※		※※	
	盛 岡	119.6	5.51	124.1	4.98	130.5	4.66	135.9	5.25	139.5	5.76	145.9	7.10
女児	全 国	114.6	4.82	120.4	4.97	125.8	5.36	131.6	5.73	138.3	6.59	144.2	6.72
	有 意 差	※※		※※		※※		※※		※※		※※	
	盛 岡	118.4	4.47	125.1	4.94	130.2	5.43	134.8	3.98	142.2	6.83	149.1	6.00

(\bar{x} :平均値 s:標準偏差 ※:5%水準 ※※:1%水準)

加齢に伴って計測値も増加する。各年齢間の平均増加量は男児5.3cm, 女児6.0cmである。全国と盛岡を比較すると、盛岡の児童の計測値は各年齢とも優位で、男児は平均3.5cm, 女児は平均4.2cm大きい。

男・女児間を比較すると7~10歳までは男児の計測値が大きく、11~12歳間では逆転して女児の計測値が大きくなる。

平均値間の有意差検定結果では各年齢、男女児とも1%水準で有意差が認められ、盛岡が優位であった。

2) 胸囲について、年齢別、性別に両平均値間の有意差検定結果を表6に示した。

年齢間の平均増加量をみると、男児2.5cm, 女児3.4cmであり、女児の増加量が多い。

表6 全国平均値との比較(胸囲)

単位: cm

性別	地区・有意差	7		8		9		10		11		12	
		\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s	\bar{x}	s
男児	全 国	57.3	3.17	59.4	3.58	61.5	3.91	63.9	4.73	66.5	5.22	69.0	5.82
	有 意 差	※※		※※		※※		※※		※※		※※	
	盛 岡	59.0	3.59	61.1	4.03	65.0	4.82	66.9	5.07	69.4	4.90	73.1	5.68
女児	全 国	55.8	3.09	57.9	3.56	60.2	4.17	62.7	4.79	66.0	5.63	69.5	6.07
	有 意 差			※※		※※				※※		※※	
	盛 岡	56.5	2.85	60.0	3.06	62.9	4.34	63.7	3.89	69.0	6.47	74.6	4.77

※※:1%水準

